沿革

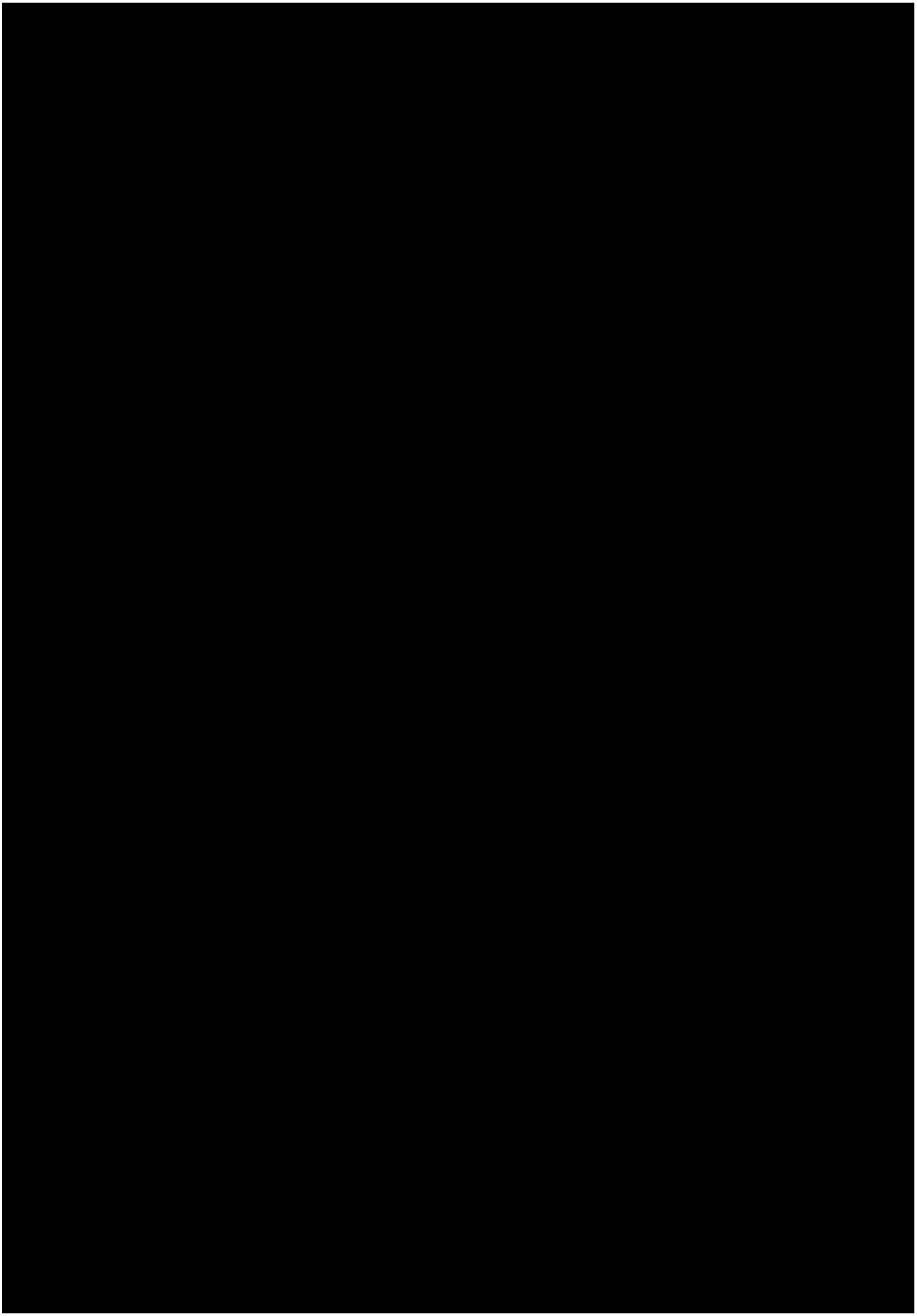
戦国武将の蜂須賀小六の城だ。小六は秀吉の四国攻めで長宗我部の徳島城を落城させた。その功により秀吉から徳島城を与えられた。しかし、1600年の関が原の戦いでは息子の家正は豊臣との盟約を破棄して、隠遁した。孫の至鎮(よししげ)が徳川方につき功績を上げ、阿波25万石が安堵された。作者の上田宗箇も秀吉の側近として仕えていて、関が原の戦いでは西軍に属して破れた。しかし北政所や浅野幸長の助縁で死罪をまぬかれ、蜂須賀家の食客として3年間お預けとなっていた。庭はこの時に作られた。上田宗箇はその後名古屋城二の丸庭園や和歌山城西の丸庭園などを作った。

庭園の特徴

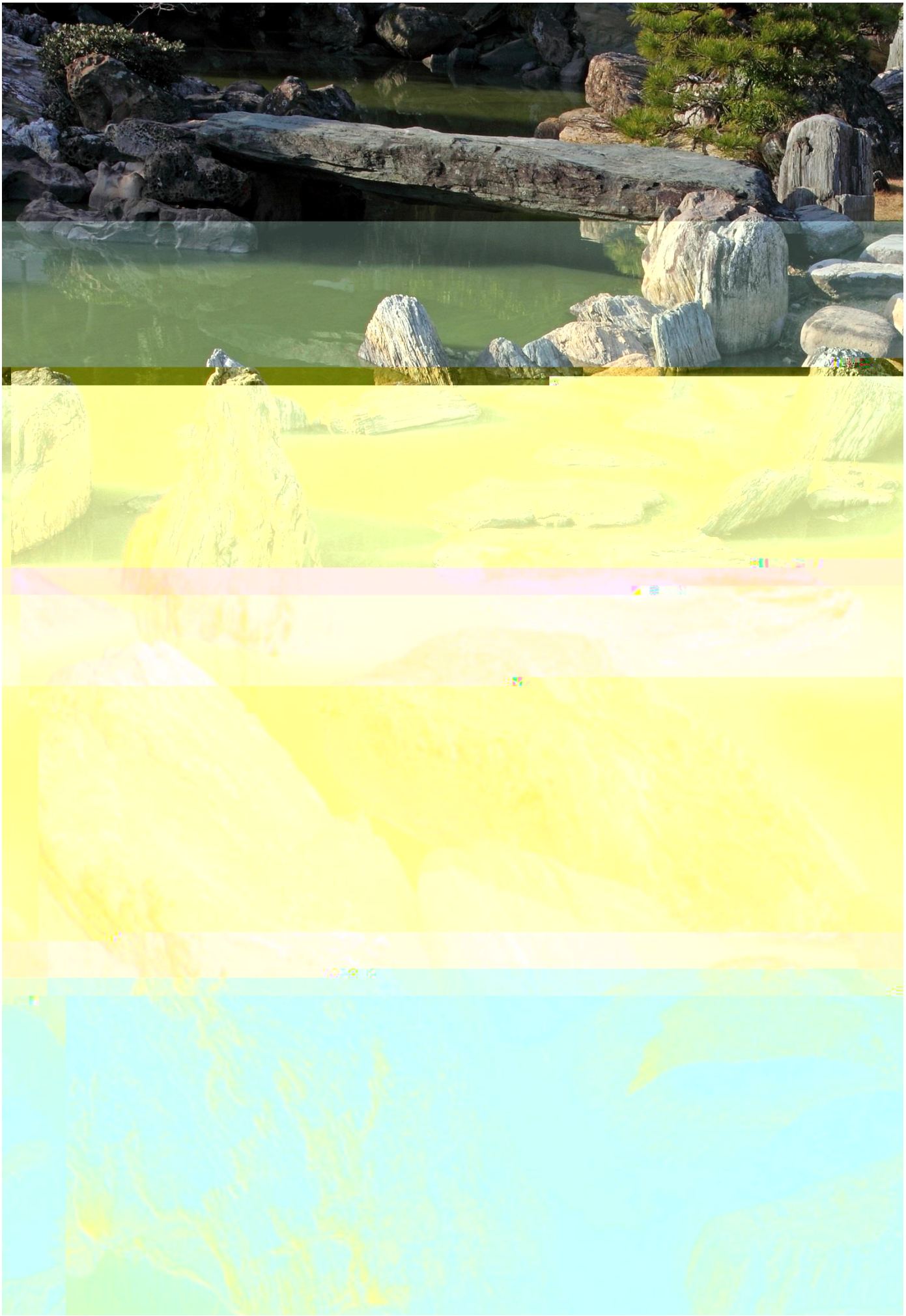
当庭園は安土桃山時代を代表する豪華絢爛たる庭である。秀吉に仕えた上田宗箇は伏見城や円徳院の作庭にも関与していると思われる。伏見城が取り壊された現在では、安土桃山時代を代表する最高傑作である。これだけ条件が揃った庭も珍しいと思う。その内容を箇条書きにしてその特徴を記す。

①枯山水部と池泉回遊式から成り、変化を持たせている
②神仙蓬莱思想:鶴島、亀島、作薬の洞窟多数あり
③陰陽和合による子孫繁栄:選び抜かれた奇岩
④豪華な橋による景観のアクセント
・10.5mの大石橋(7:3 に折り 2 橋としている):桃山文化の代表的な橋
・6mの切石橋:シャープな切石によるアクセント
・3mの阿波の青石(出島から陰陽和合の山):長方形の阿波の青石
・豪華な阿波の青石(鶴島と亀島をつなぐ):仙界の鶴島と亀島をつなぐ橋は豪華で力強い
・玉澗式の深山幽谷に架かる橋:本来は峡谷に架る、渡るに渡れない橋
・皺のある奇怪な橋(亀島と対岸をつなぐ):仙界の亀島に渡るにふさわしい奇怪な橋
⑤沢渡りの元祖:稀にみる沢渡りが二つもあり、池泉の回遊に変化を持たせる。大名庭園や明治、大正時代の沢渡りは渡るだけの機能になるが、この沢渡りは自然な風景で庭園と溶け合っている。
⑥阿波の青石:いたる所に垂涎の的である青石が採用されている。但し鶴島、亀島には変化を持たせるために使われていない。

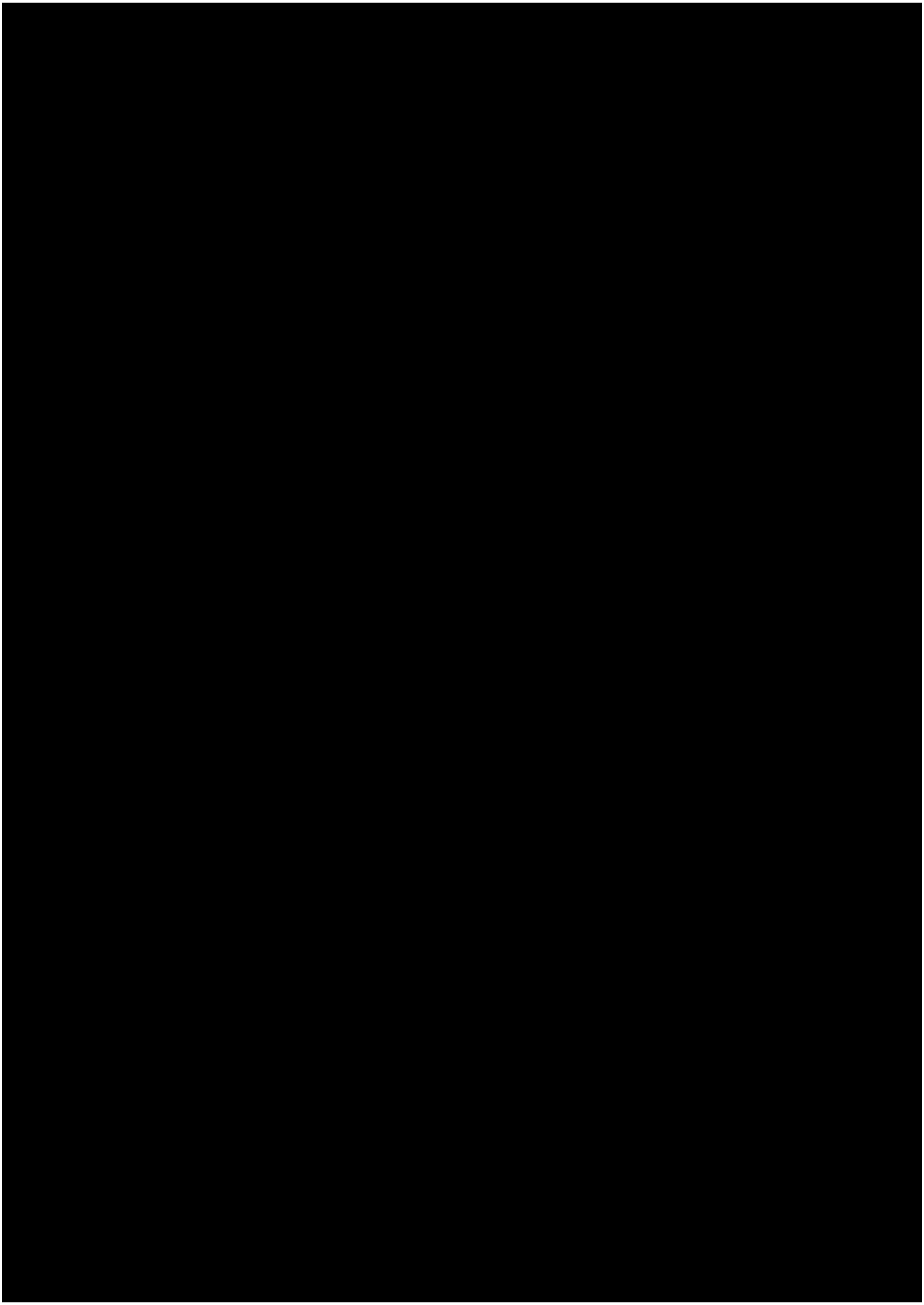
枯山水部分の巨大な橋は７：３の位置で折られている



観音堂跡の龍門瀑から続く枯渓流はやや蛇行しながら、深い渓谷に落ちていく。渓谷には洞窟があり、神仙蓬莱の趣が感じられる。なお、渓谷に架かる橋は玉澗流の橋で、やや不安定な様子である。



枯山水部から鶴島への豪華極まりない沢渡りと、鶴島・亀島に架かる青石の橋。沢渡りの原点でもある。



巨大な舟石

奥にある鶴島と亀島を巨大な青石で繋いでいる。中央にある亀島は総て皺が入った石で蓬莱山を想像させる。また亀島と護岸を結ぶ跳ね橋のような石組みは、蓬莱山の洞窟を連想させる。

鶴島(左手前)、亀島(右下)、洞窟(奥)の絢爛豪華な護岸

巨大な陰陽石

三尊枯滝の前にある巨大な舟石

鶴島は丁寧な剪定により見事な石組みが現れた。

観音堂下の龍門瀑【鯉魚石（中央左側の黒味の石）・龍頭石（中央右側の傾斜した石）・龍の玉(中央白石】
石組全体が、中央の白い石に吸い込まれるように組まれている。鯉魚が龍への化身を暗示した造形。